

帯広畜産大学原虫病研究センター共同研究報告書

2022年6月5日

採択番号	2021-共同-16		
研究部門	診断治療研究部門	原虫病研究センター 内共同研究担当教員	菅沼 啓輔
研究課題名	Deciphering trypanosome parasite tissue tropism and sequestration		
研究代表者	(ふりがな) 氏 名	所属部局等・職名	
	Jack Sunter	Oxford Brookes University, David Fell Research Fellow	
研究分担者			
	すがぬま けいすけ 菅沼 啓輔	帯広畜産大学原虫病研究センター・先端予防治療学分野・助教	
研究期間	2021年4月1日 ~ 2022年3月31日		
目的・趣旨	<p>アフリカ動物トリパノソーマ症病原原虫の中でもっとも病原性が高く、かつ他種アフリカトリパノソーマに比べて研究が進展していない <i>Trypanosoma congolense</i> を対象として、遺伝子組換トリパノソーマの哺乳類およびベクター組織移行動態の解析を目的とする。本研究では <i>T. congolense</i> の全ステージ培養系を有する原虫研先端予防治療学分野に、研究代表者が遺伝子組換原トリパノソーマ作製用プラスミドの構築と提供を行う。研究分担者は分与プラスミドをもちいた遺伝子組換 <i>T. congolense</i> の樹立を目指す。</p>		
研究経過の概要	<p>COVID-19 の蔓延により研究代表者の研究活動が困難であった。研究代表者の研究再開および遺伝子組換トリパノソーマ作製用プラスミド提供後のすみやかな実験開始にそなえ、研究分担者は培養トリパノソーマの維持に努めた。</p>		
研究成果の概要	<p><i>T. congolense</i> での遺伝子組換トリパノソーマの作製を目指して、解析候補遺伝子を検討した。結果、同原虫で特異的に発現する数種類の遺伝子を特定することが出来た。さらに、申請者のラボで標的遺伝子に対するプラスミドコンストラクトを設計・構築済みであり、今後共同研究者への送付を予定している。</p>		
研究成果の発表	特になし。		